

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3090100151		
法人名	社会福祉法人 寿敬会		
事業所名	グループホーム ハルジオン		
所在地	和歌山市井ノ口301-1	電話	(073-497-8080)
自己評価作成日	H25年2月15日	評価結果市町村受理日	平成25年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/30/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosvCd=3090100151-00&PrefCd=30&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県社会福祉士会
所在地	和歌山市手平2丁目1-2 和歌山ビッグ愛6階
訪問調査日	平成25年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に包まれた、静かな環境の中で、地域との交流・連携を持ち、御互いに支えあい、地域の中で生活を共有し家族・地域との絆を大切に、毎日楽しくゆったりと、笑顔で生き活きと生活暮らせる様に心がけてます。介護、認知症状の重い方でも、その人らしい生活を過ごせる様に支援し、健康面に於ては、連携の病院、訪問看護との連携を密に行い健康管理に努めています。又、これまでの生活のリズムを大切にできるよう、夕食後、入浴施行を試みてます。そして、グループホームに入居されても社会との関わりを無くさず、今迄以上に社会との関わりを大切に、笑顔と笑いの絶えない環境作り、家庭生活の延長を目指したグループホームを築いていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然に包まれた広い敷地内に、モダンな中にも住みやすさに配慮したグループホームである。その人らしさを大切にした居室が用意され、訪れる方々に安らぎと安心を感じさせる陽光あふれる生活の場となっている。そして、ホールには「楽しく・ゆったり・みんなで暮らそう」という理念の文字があるが、これは職員と利用者が共に考え、掲げた新しい理念である。この理念の下、家庭の延長のように日々の生活が安心して過ごせるように、入居者本意の生活づくりを地域の中に展開している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念をホーム内の目の付く位置に掲示し、常に意識・実践する様に心がけています。入居者とは、理念「楽しくゆったりみんなで暮らそう」を元に生活が過ごせる様に職員が同じ方向を向いていける様に実践している。	ホーム内に手づくりで掲げられた理念は、一昨年に見直された経緯があり、職員一同と利用者が共に暮らす日々の生活を大切に共有する姿勢が表記されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域での行事や催し等、入居者と共に参加している。ホームの代表として、職員が地域の清掃、児童の登校時の旗持ち(安全誘導)に参加している。又、地域の方々からホームへのボランティアも参加してくれている。	地元の小学生の訪問や、「ハルジオンカフェ」の開催が定着化しており、地域交流の場として楽しまれている。職員が地域の清掃や、児童の登校時の旗持ち(交通安全誘導)に参加しながら顔なじみの関係を構築している。	地域密着型のグループホームが果たすべき理念を柱として、ボランティア活動の受け入れや、認知症ケアを通して地域交流の先がけ機能に繋がる事に期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隔月にハルジオンカフェとの名の茶話会(地域の方々や入居者家族等参加)お菓子・料理・手芸等制作を設け理解していただける様にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に会議を開催し、地域包括センター家族入居者家族隣接GH警察官民生委員地域役員参加にてホーム活動報告意見等いただき検討し取り組んでいる。	定期的な運営推進会議が開催されている。包括支援センターの職員参加等の顔ぶれに加え、会議では報告事項、協議内容や、地域行事や防犯への協力などに、幅のある会議内容で参加の質を検討している。	今後は消防団や自治会等にも参加の働きかけを行う等、参加メンバーの広がりに期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日常より、地域包括支援センターと連携し、地域の行事研修講演会の情報をいただき参加している。又、空室情報事業所運営等の理解できていない処等聞き指導してもらっている。	母体法人との連携を基盤に和歌山市本庁の連携に繋がれるために支所への挨拶訪問、市報や地域紙の閲覧などを取り入れ、地域情報を把握して連携参加に努めている。	今後、和歌山市が構築する地域包括ケアシステムにおけるグループホームの役割をスタッフや家族などができるだけ理解できるようにしていくことを期待する。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会や研修により、職員全員が身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠に対しては、家族より要望あり、危険なリスクの軽減に努めているが、時間を決めて施錠、解錠し事故に繋がら無い様に努めている。	玄関の施錠の開放はセンサー装置でリスクの回避に繋がれながら、訪問者の気軽な参加への姿勢が伺える。ホーム内では、拘束排除のケアへの取り組みは研修と共にスタッフの正しい意識化への教育を進めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や研修会に参加し、職員全員で問題を検討、共有し職員間で声掛け等気を付け、ストレスを貯めない様に心がけている。ゆとりを持ち仕事出来る環境に繋げ、職員の心のケアに気を付け虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用されている方は居ないので制度等の知識は乏しいですが、法人、包括支援センター主催の研修には職員参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所する前には必ず事前訪問、重説・契約書の説明を行い、実際には、ホームの見学 1日体験も実施している。家族の思い、入居者の状態等を細かく把握し、相互に理解出来る様に対応、契約を勧める様に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情窓口を設置し、家族会を開催、苦情や意見の出し易い環境作りに努めている。又、毎月ホームの状態・状況等ハルジオン通信にて家族に知らせ通信覧に家族の意見等の書き込みで、家族との共有に努めている。情報等は、運営推進会議で発表、検討行っている。	家族の訪問時には、ホーム側からの問いかけや、要望などの意見を聞くように努めている。スタッフと検討の中で、ハルジオン通信の利用や運営推進会議等で回答(共有)するなどの手段を講じている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部署での月1回のミーティング・ハルジオン全体のミーティングを行い、管理者・リーダー・職員間で問題検討 共有行っている。又、参加出来ない職員には、会議議事録等で書類閲覧し、明確に伝わる様に工夫している。	毎回のミーティングや、日々の業務の中で職員間の明確な伝達ができおり、相互の意見交換が可能な職場気質を維持できるように工夫している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者・管理者・職員がコミュニケーションの取れる機会(ポーリング大会・忘年会・ソフトボール大会)設け、職員個々の思いや能力の向上に努め職場に反映できる環境づくり、資格取得に対しての支援等も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアに必要な研修だけでなく、資格取得に対しての支援講座等を行い、スキルアップ、向上心に繋げている。研修等参加職員による、伝達講習会を開催し、職員全員に伝わる様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会・運営推進会議等、外部研修に参加、隣接のグループホームとの交流、情報の交換 訪問等でサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に入居者宅訪問、又、ホームでの1日体験を設け本人・家族と面談を行い、アセスメントを元に家族の思いを考慮し、関わりを持ち状態を把握、信頼関係を築く様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に訪問の回数を重ね家族の不安や思いを受け入れ、対応し、支援していく方向を検討、話合う機会も多く持ち、信頼関係に繋げる様に努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族・本人の状態・状況を充分に受けとめ、今必要とする支援について明確にし、詳しく説明をする。自ホームに限らず他のサービス利用も含めた対応が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員・入居者との考えをしないで、日々一緒に生活を共にする家族として対応し本人の生活習慣・能力・趣味・興味のある事を把握した上で出来る事は、自分で行き、出来ない事は共に助けあい生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの生活の様子、身体状況等情報を面会時等に報告し、情報の共有が出来る信頼関係を作りながら、月1回のハルジオン通信送らせていただき情報の共有に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時は、本人と落ち着いて話の出来る空間を作り、入居以前からの進行のある方には、面会・ボランティア等の依頼を手紙、年賀状・暑中見舞い等を出し、馴染みの関係が途切れない支援をしている。	面会時にはホーム内や居室で自由に過ごしてもらい、家族の希望に沿った宿泊も可能である。正月や盆の季節行事には自宅に戻る利用者もあり、利用者側からの「手紙やはがき」を出すなどの馴染みの関係維持に支援している。	地域で活躍するボランティアや慰問訪問者等の関係が途切れないように、今後も「絵手紙」やハルジオン通信の内容を検討して関係維持の支援に努めて頂きたい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人同士で過ごせる場、独りで過ごせる場等その都度 場面的に合った過ごし方が出来る様職員が関わり支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了された方の家族の訪問も継続されている状態で、ホーム情報やイベント等の連絡を行っている。家族からは、介護についての相談を受けたり紹介等の支援も継続している。気軽に訪問していただける支援を心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の声(希望)に耳を傾け、職員間でミーティングを行い、出来る限り利用者の希望に応じられる様に支援している。	個別にその人の思いに耳を傾け、介護度の異なる利用者に配慮しながら利用者本意のかかわりを検討している。入所者の中には、仏壇を持ち供養している利用者もいる。献花の際には、職員も寄り添っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の今迄の生活習慣を大切に出来る様に、情報収集や入居者との会話から得た、生活習慣の内容は、職員全員が把握できる様に努め、入居者の思い等は大切に支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の心身状態、(体調、精神状態)重視する事等常に把握 共有し 職員間で、情報等の漏れの無い様に介護記録への記入、申し送りを徹底し統合的に把握できる様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者や家族の希望を把握し、職員間のミーティングでの情報交換や共有を通じて、モニタリングを行い、検討しプランやケアに活かしている。	介護計画作成におけるケアプラン作りには職員の参加と意見の表出がされるように、「共につくるプラン」が実施され、展開過程とモニタリングから次に繋げるシステムが構築されている。	事業者側主導に陥りやすいケアプランとモニタリングの過程において、家族参加への検討にさらなる期待をすする。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常的に、職員間での気付きや工夫を介護記録に記入し、ミーティングでカンファレンスに活かす様にしている。介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設の中だけの生活にとらわれず、他事業が隣接している事も活かして、日常より交流を図り、自由な活動的な雰囲気の中で、他事業の職員からも意見や情報を得て、柔軟な支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握だけでなく、地域の行事等(清掃や祭り、交通誘導等)に参加し、地域の駐在所の見回りでのホーム立ち寄りの協力も依頼し。色々な支援が出来る様にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を重視して、入居前からのかかりつけ医の受診も実施している。週1回の往診・訪問看護対応にて、医師・看護師・介護の連携を密にした支援、入居者の健康管理に努めている。歯科受診 口腔ケア等往診も実施している。	今期には訪問歯科診療と口腔ケアへの取り組みを実現され、入居者の口腔衛生管理への充実した手ごたえを得ている。既存の訪問診療医との連携は築かれている事も確認できた。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションの看護師による、週1度の医療的支援を受けている。職員間で気付き等情報共有し、訪問時に相談・伝達し個々に合った適切な指導を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院は、病院関係者・家族との情報交換を密にし、退院受け入れを無理の無い様に面会等行い入居者には安心して生活が出来るように支援している。又、関係する医療機関とは、日常より情報交換を行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	随時、専門職や関係機関と情報交換、情報を共有し、家族には、情報の変化等細かく伝達行なっている。	入居者の加齢経過とともに医療ニーズが高くなる場合の状況を踏まえ、訪問看護連携とともに、本人と家族が望む医療機関への入院等、情報交換と方針の共有に平素から家族との話し合いを細かく行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の方法等、緊急時マニュアルを作成し、職員間でミーティング時実践行い、ホーム内研修を通して学ぶ様にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年2回実施し、職員と入居者が一緒に非難経路の確認や消火器の場所、取り扱い方の訓練行なっている。	年2回の訓練の実施を確認できた。今後は夜間災害に備えた訓練の機会を関係機関に求める予定である。緊急災害時等の応援体制は母体施設と地域消防団等の協力を得る方向が示されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者には、常に尊厳を持った言葉かけや対応を心かけている。ミーティング・研修等で、接遇についての討論をし、不適切な対応、声かけ等は、職員間で注意、改める様にしている。	入居者と職員間に不適切な声かけや発言は見られない。尊厳あるケアの姿勢は、管理者からの指導や、接遇研修において、共に過ごす日々の暮らしの中に定着している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を尊重・重視し、日常生活のなかで、自己決定できる雰囲気、環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課等の計画や予定はあるが、入居者の健康状態、性格、意向等に沿った強制 無理強いしない本人の望む生活が送れるような支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理美容実施したり、自立の方は近くの美容室に行かれたり、パーマ、毛染め等行なっている。他の方の毛染め等は、職員が対応している。衣類等は家族に依頼、個別に買い物に出かけたり、整容等は、常に鏡を覗く習慣を行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立はある程度決めているが、その日の入居者の希望等聴き、取り入れている。又、職員と一緒に調理・配膳 後かたづけ等 本人の能力に応じた支援も行なっている。	日常的に「おやつ作り」や季節料理を楽しめるように、料理作りや準備や後片付けの機会を多く取り入れている。「いちご大福・巻きずしなどは先日開催された(雑祭り)メニューの一品であった。ホーム内写真などで様子がうかがえる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日常、介護記録表に食事・水分量を記入し、日々の健康管理全般の管理を行なっている。記録を元に食事量管理 カロリー表も活用したバランスの取れた食事を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には声かけを必ず行い、自分でできる人は自分でして頂く、出来ない人は介助での個別支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、介護記録表の活用、職員間で共有行い、失禁等の無い様に対応声かけ行なう。極力オムツを使用しない様に対応し、声かけ等も尊厳を考慮した対応をしている。	個々の排泄パターンを把握しながらのトイレ誘導を繰り返し、自立した排泄援助を心がけ、尊厳ある対応に務められている。オムツ使用から紙パンツへの成功事例を確認する。	入居者の特性として、排泄コントロールが困難な場合等には、内服等による医療との連携を重ね、今後も継続した、良い排泄の習慣援助に期待する。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	偏らない食事や、食物繊維の多い食事を取り入れ便秘の予防、水分不足にならない様に個別工夫した飲み物にして対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望を聴き時間を決めず、入浴したい時に入浴対応出来る様に努め、好みの入浴剤 雰囲気作りをしている。又、夕食後夜対応の入浴支援を試みている。	今春より、より日常的な入浴時間を検討して、夜間対応の入浴を試み始めている。職員の勤務時間の変更を話し合い、夜間入浴での介護スタッフを配置する等の支援スタイルを開始している。	個々のニーズに沿った「入浴のたのしみ」への支援を検討実施され、モニタリングと評価で介護の質の向上に繋げて頂きたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中と夜のメリハリがつく様にレクリエーションや日々の活動を充実できるよう支援を図り更衣や室温・照明に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の服薬情報を職員間で共有し、個々の病歴等も把握した状況で、副作用等把握している。状態等往診時にDrに報告し指示を仰いでいる。状態に合わせて服薬方法も個別支援行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や強みを活かせるよう、洗濯・掃除調理などの日常生活で出来ることを手伝っていただいている。又、隣接他事業所の行事、レクにも参加され気分転換が図られるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の行事、買い物、外食 通院等の外出の機会を設け、体調等考慮しながら対応している。家族の協力も得ている。	定例行事とともに、日常的な外出の機会をより多く提供できるように、地域内の行き先の検討と家族の協力を得ながら支援している。	今後は、外出の際にボランティアの活用を検討するなど、より個別性に富んだ外出が無理なく行えるように工夫していくことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る方は、家族の希望で5千円迄保持されています。自分で計算し買い物できる支援の1つとして、訪問パン販売を利用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話 手紙等は、入居者の希望された時は、必ず対応している。年賀状や礼状等、四季折々の便りを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・リビング・居室など日差しが入り明るく開放的な環境である。車椅子の移動に支障の無いスペースの確保もされウッドデッキや芝生の中庭など野外での活動に適した空間も整備されている。	ゆったりした共用空間は開放的な環境であり、中庭や、散歩通路がある。敷地内の畑では、野菜や植物の生育にも適している事を利用して、季節ごとの野菜の収穫の喜びも体験されている。車いす移動でのスペースの広さも整備されている。	生活の場で必要な更衣や、衛生材料、洗剤等のボトル類などの収納スペースが少なく、モダンな住居を乱雑にしている印象がある。今後、収納整理の方法を工夫するなどの取り組みを期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中に、ソファ 椅子等置き、思い思いに過ごせる様にしている。又、リビングの一面に馴染みの畳を敷き日常生活〔洗濯たたみ、アイロンかけ〕一人で過ごしたい空間として活用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、家族 入居者で相談し、出来るだけ馴染みの家具等を用意していただき、自分の家のような安心する、癒される空間作りに努めている。	居室の掃除や整理整頓は、自立を尊重しながらの手伝いをする、持ち込まれた家具等で居心地の良い個別化された状況である。清潔・空気・光・温度などの環境は、柔らかく安心感のある配慮が見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前のネームプレートも個々に分かりやすいように対応している。トイレ 風呂場等その方の目線にあった見やすく、安全である環境づくりをしている。		